いま、新・開拓時代。

この冬の時代を切りひらき、21世紀への黎明に向かって
あたたかい道政をめざします。

横路（よこみち）孝弘

横路孝弘

New
Frontier
Age.

政治姿勢

1.——広く道民の力を結集し、道民本位の行政を行なうため、道民党の立場にたち、無所属で立起します。

2.——道政に民主主義を徹底します。
道民、市民団体、経済団体、労働組合などと広く対話をすすめ、とりわけ各市町村の積極的な道政参加の道を開きます。

3.——道政の科学化と合理化をすすめ、道政における無駄の排除と道政の公開を行ないます。
タブーをおそれず、あらゆる問題に検討を加えます。

4.——実際的現実的改革をはかり、一歩、一歩、「静かなる改革」を検討します。

政治理念

1.——活力あふれる民主的道政……
21世紀へむけ「大いなる北海道の時代」をつくるため、あらゆる分野で、可能性を追求します。
なによりも道民から出発した道政、道民の目に見える道政、人と人との心のふれあい、心がかよいあう道政にかえなければなりません。

2.——表情豊かな北海道経済をつくります。
そのために、農業、漁業、林業、鉱業などの体質を強化し、地域に根ざした産業の振興と機械産業や先端産業の導入に力を尽します。

3.——地域に根ざし世界に開く北海道、緑をとりこんだ都市づくり、緑の中の工場など、地球のモデルとなる北海道をつくります。
また、国際会議場を建設し、国際会議を通じて、世界の平和に貢献します。

4.——生活者の心がかよう「あたたかい道政」の推進。道政は、「希望・安心・連帯」の指標のもと、「生活の質」を基準とした
「あたたかい社会」を追求していきます。

馬鈴薯のような あたたかさ、そして確かさ。

じゃがいも

横路 孝弘のプロフィールは…

いま「カムバック北海道」の声は、大きな輪となって、
彼に知事選出馬の決意をさせました。
彼・横路孝弘は《北海道のサラブレッド》といわれ、
国会壇上におどりでて、もう13年。
予算委員会、大蔵委員会、ロッキード特別委員会、安全保障特別委員会などの活躍は、
もうテレビ、新聞などでご存じの通りです。
国政の場でつちかわれた政治手腕、人間関係が
いま、この北海道で生かされようとしています。

彼の歩んできた道は…

昭和16年1月3日　札幌市に生まれた横路孝弘さん。
豊かではなかったが、あたたかい家庭環境が、のちの彼の政治理念に生きることになる。

札幌市大通小、二条小、啓明中、道立札幌西高校、都立九段高校、東大法学部卒。

昭和41年10月22日、由美子さんと結婚。プロポーズは、彼が東大法学部の学生時代。「この時由美子夫人の態度は？」の質問に「一も二もなかったんじゃないですか、フッフッ」とおおいにテレる。

昭和41年→司法試験合格、弁護士開業。
昭和44年→28歳で北海道一区より衆議院議員に初当選、以来連続5期当選。

現在。母・美喜さんと由美子夫人、それに３人のお子さんと健康そのものの家庭。
ここが彼のエネルギッシュな活動の母港である。

平和のためには世界にとぶ。
「核の凍結」運動の女性事務局長を囲む。
親しい田 英夫 社民連代表の顔もみえる。
―ワシントンで―

デクレアル国連事務総長を国連本部に訪れる。彼の活動は、いつも国際的視点にたって展開する。

河野洋平氏と日本の未来を語る。
田川誠一、宇都宮徳馬氏など 交友は広く、13年間の国会活動は、彼らからも信頼し期待を集めている。

横路孝弘さんは、知事選立候補にあたって、こう決意を語っています。――――――――――

「私はこれまで衆議院議員として、大蔵、予算、安全保障、ロッキード等の委員会に身をおき、
わが国の外交、財政、安全保障、政界浄化の分野にあって微力ながら努力を重ねてきました。
こうした私の活動のすべては、この北海道に足をおくものであり、
私の志は、私にかわらぬ期待をかけてくださった町や村々の人びとの想いと重なるものであります。
その多くの同志の人々の声に従って私の道を決するのは、政治家として当然のことであります。」